



# 戦争と原爆と原発と 放射線被曝のつながりを 「内部被曝」から捉えよう！

— 守田敏也さんに聞く



## 守田敏也さんのプロフィール

1959 年生まれ。京都市在住。同志社大学社会的共通資本研センター客員フェローなどを経てフリーライターとして活動中。アフガン・イラク戦争に反対し、旧日本軍性奴隷問題（いわゆる軍隊慰安婦問題）にも関わり、被害女性のサポートをしてきた。

原子力政策に関しても独自の研究・批判活動を続け、被曝地を度々訪問。関西を中心に各地で放射線防護の講演を積極的に行っている。2014 年よりドイツ・ベラルーシ・トルコ・ポーランドでも講演を実施。とくにトルコでは日本からの原発輸出予定地シノップに関わりを持っている。兵庫県篠山市原子力災害対策検討委員会委員も担っている。

ブログ「明日に向けて」で日々、情報を発信するとともに、物理学者矢ヶ崎克馬氏との共著『内部被曝』（岩波ブックレット）、原発災害対策について述べた『原発からの命の守り方』（海象社）がある。  
ブログ；明日に向けて  
[http://blog.goo.ne.jp/tomorrow\\_w\\_2011](http://blog.goo.ne.jp/tomorrow_w_2011)

日時； **8/14(金)18:00~20:00**

場所；緑の党グリーンズジャパン事務所（JR 高円寺駅北口 1 分）

参加費；1000 円

戦争法案が強行可決され、私たちは今、戦争への流れとの全面対決が問われる地点に立っています。

同時に原発が再稼働されようとしています。川内原発にはすでに核燃料が装填されました。私たちは再稼働を止めるためにさらに奮闘することが問われています。

広島・長崎原爆で内部被曝の影響は徹底して隠され、人体への放射線被曝の影響を限りなく小さく見せることで、その後の相次ぐ核実験と原発の運転を可能に してきました。福島原発事故以降の放射線被曝の影響の過小評価の大合唱も、核戦略と核産業全体の防衛的対処でもあります。

被曝 70 年のこの夏、戦争法案が強行可決されたこの夏にこそ、内部被曝をキーワードに「戦争と原爆と原発と放射線被曝」の太いつながりを自覚し、二つの運動を一つにして奮闘する必要があります。

\* 守田さんからのメッセージ全文をHPに掲載しています。  
<http://greens-japan-tokyobranch.jimdo.com/>

共催

緑の党グリーンズジャパン東京都本部  
緑の党グリーンズジャパン社会運動部

杉並区高円寺北 2-3-4 高円寺ビル 601  
TEL：03-5364-9010/FAX：03-3223-0080